



第30号  
平成22年12月27日  
編集・発行  
日本杖道会

## 武道のすすめ

我が国現下の社会情勢は、極めて混迷致しております。この難局を打開していく道としては「武道」の普及発展に待つ他ないと信じます。と申す事は武道の目的は心身の鍛錬に励み、温厚なる人間関係と倫理観を高め、自己の人間性を向上し、立派な社会人として国家社会に貢献することであります。

更に日本民族は、国際人としても常に正しく視野を広くし、急転する時代の流れに即応できる国際観をもつうえにも「温故知新」(古きを温ねて新しきを知る)日本古武道の神髄を究めねばなりません。特に古武道は古来、生死の間に行じて来た先達の「業の集積」「心の集積」として伝えられたのであり、「業と心」に触れる事に寄って私共は修行の糧とすることが出来るのであります。真剣に寸毫の油断なく、一呼吸といえども法に従い規に則う姿は、美であり雅であると思えます。国民各層に普及し併せて青少年育成の一助としたいものです。

日本杖道会  
会長 神之田 常盛

### 第54回 全国杖道大会

部門	優勝	準優勝	三位	敢闘賞
少年所属	居石真太郎 (江藤道場栄心館)	上田 菜月 (江藤道場栄心館)	金山 晃子 (宮崎県剣道連盟杖道部)	日下部沙里 (江藤道場栄心館)
無段所属	吉武 由美 (熊本県剣道連盟杖道部)	小島 太平 (福岡武道館杖道会)	古賀 京子 (明德館道場)	河野 崇 (山王杖道会)
初段所属	長澤 裕介 (関西杖道連盟)	野呂せつ子 (神道夢想流杖道水月会)	大塚日出夫 (関西杖道連盟)	安本 誠一 (千代剣友会)
二段所属	宮田 遼平 (関西杖道連盟)	渡邊 弘美 (筑波朝鍛会)	丸山 明美 (今治市越智郡柔剣道連盟)	村上 佳隆 (正修館道場)
三段所属	荒木 正亨 (明德館道場)	小川内泰生 (八女杖道会)	磯野美佐緒 (明德館道場)	日高 弘嗣 (鹿児島杖道会)
四段所属	高嶋 由紀 (武揚館道場)	森 英俊 (福岡武道館杖道会)	橋口 弘美 (福岡武道館杖道会)	齋藤 俊吾 (筑仙会)
五段所属	伊橋 慶 (尚武館道場)	池永 泰雄 (熊本県剣道連盟杖道部)	矢鋪 祐司 (西宮長和会)	角田 紘子 (神道夢想流杖道正道会)
六段所属	濱田登美子 (鐵心会)	橋本 幸士 (粕屋杖道会)	松阪 徳昌 (千代剣友会)	米田 廉 (福岡武道館杖道会)
七段所属	太田 安昭 (松本杖道会)	前田 新吾 (神道夢想流杖道水月会)	小野 景久 (長野)	金村 真理 (尚武館道場)

去る平成二十二年九月十一日、神道夢想流杖道振興会(神之田常盛会長)は福岡県太宰府の神域に連なる宝満山竈神社境内に鎮座する夢想権之助神社に於いて流祖祭を挙行された。

引き続き九月十二日、第54回全国杖道大会(神道夢想流杖道振興会主催)が福岡県福岡市博多体育館で行われた。大会参加者は323名、熱戦が繰り広げられた。成績発表は次の通り。

## 神道夢想流杖道流祖祭並びに 第54回全国杖道大会

日本杖道会主催

# 第35回 筑波山神社奉納演武大会

住田 克己

今年八年ぶりの紅葉の当たり年といわれる。車で筑波山に近づく、車窓からみた筑波山は色とりどりの紅葉で山全体が美しく彩られていた。平成二十二年十一月二十七日十時、一同昇殿参拝し身体と心を清め、引き続き演武に入る。奉納演武に先立ち、露ばらいとして神之田常盛師範、大里耕平師範の神道夢想流杖道奥伝の静謐で気迫に満ちた演武が行われ、同時に晩年夢想神伝重信流により開眼した橋本正武氏に師事した篠原武司氏の居合が披露された。

神道夢想流杖道、全剣連制定杖道、神道霞流剣術、内田流短杖術、一心流鎖鎌術、一角流十手術、夢想神伝流居合道、各流居合道等々それぞれが得意とする技を心いくまでそれぞれの思いを込めて奉納演武を行った。そして、筑波山神社田中宮司から演武者一同それぞれに「貴殿は敬神の念篤く筑波山神社に平素修練の武技を御奉納に相成り洵に奇特のいたりであります」との各人の名前入りの感謝状をいただいた。昼食後、かつて夢想権之助流祖が武術の修験場として日夜精進したと史実に残された



筑波山神社

筑波山山頂に登る。山頂は抜けるような青空と暖かい陽ざしにめぐまれ、大勢の登山客で賑わっていた。そしてそれぞれゆつくりとした足取りでとりとめもないことを語らいながら山を下り、齊藤伝鬼坊終焉の地とされる不動堂に向かった。

齊藤伝鬼坊は戦国末期の剣術家で天流・天道流の祖。常陸(茨城県)の生まれで、初め塚原ト伝について新当流を学び、一五八一年鎌倉の鶴岡八幡宮に百日参籠して秘術を開悟し、天流と称して諸国を歴遊した。京都に上って一刀三札

の太刀を天覧に供し判官に叙任して自らを齊藤判官伝鬼坊と称した。

井出に戻って道場を開くと、教えを受けに来る者、日に三百人、関東一円に及んだ。真壁城主暗夜軒道無は召し抱えようと度々招いたが、剣だけに生きる伝鬼は招きを断り続けた。伝鬼の名声がますますあがると、道無は招きを断るを不埒として家来の桜井霞之助と一騎打ちの真剣勝負で殺そうと謀った。霞之助は一瞬で打ち殺され、これに立腹した桜井大隅守ほか道無門



下は桜井村の不動堂で齊藤伝鬼坊を無数の弓矢で謀殺したと云われている。

「本朝武芸小伝」に次のようなことが書かれている。齊藤判官伝鬼坊は相州の人幼少より刀槍之術を好み鶴岡八幡宮に参籠。参籠していた修験行者と刀槍之術を談じ終夜刺撃を試み味わった。伝鬼は自然にその妙旨を悟った。修験者が帰去するとき伝鬼が君の術は何流と称するかとの間に修験者は何も言わないで曜霊(天)を指さして去っていった。ハ中略Vある日伝鬼鎌槍を持って弟子一人と道を歩いていると霞の党数十人不意に來たり伝鬼は既に囲まれていた。もう遁れることは出来ない知り、弟子に去るよういっ



打山口満師範 仕 阿部修師範

